

議会運営委員会行政視察報告書

令和8年1月21日

松阪市議会
議長 濱口 高志 様

議会運営委員会
委員長 久松 倫生

下記の通り行政視察を行いましたので報告をいたします。

記

1. 視察目的 議会運営委員会行政視察調査
2. 視察日程 令和8年1月7日(水)～1月8日(木) 2日間
3. 視察先 大阪府和泉市役所 / 兵庫県宝塚市役所
4. 出席者 久松 倫生(委員長)、市野 幸男(副委員長)、森 遥香、小野 建二、吉川 篤博、橘 大介、赤塚かおり、深田 龍、沖 和哉
正副議長・濱口 高志議長、楠谷さゆり副議長
5. 随員職員 新田 和弘 議会事務局次長、中口真理子 議事担当主幹兼議事係長
6. 報告書作成者 吉川 篤博 / 深田 龍
7. 視察項目・内容 別紙の通り

以上

1. 視察先 大阪府和泉市 市役所

日時 1月7日(水曜日) 13:30~15:30

視察テーマ 議会改革の取組について～

和泉市議会对応者

議会事務局総務課長 上岡 繁 ・ 議事調査係総括主査 西垣 聡
議事調査係主事 香山 幸輝 ・ 議事調査係主事 北山 透也
議事調査係長 川崎 由美

和泉市(大阪府)は、面積約 84.98 km²で、南部は和泉山脈に連なる山地、北部は槇尾川・松尾川が流れる丘陵・平野が広がり、瀬戸内気候区に属し温暖で、人口は約 18 万人(2025 年 12 月推計)で、人口密度は 2,100 人/km²超、大阪府南部(泉州地域)に位置する自然と都市機能が調和した地域である。

温暖な気候と豊かな水に恵まれ、弥生時代から開けた歴史を持ち、「和泉清水」に由来する地名で知られている。繊維工業などの伝統産業と、ベッドタウンとしての宅地開発が進み、「都会の利便性と田舎の自然」を両立させ、大阪都心や関西国際空港へのアクセスも良好な点が特徴である。

○議会改革・議会活性化の取り組みの経緯

平成 18 年に「議会改革検討会議」を設置し、議会改革に関する問題を調査項目に掲げ、開かれた議会への対応、議会運営全般、議員活動などの諸問題について、他市議会の状況等を調査しながら議会改革を進めていたが、令和 2 年に「議会改革検討会議」が終了。令和 5 年に「議会改革活性化会議」を設置した。

○開かれた議会の主な取り組みとその成果と課題

- ① 近年の議会改革の取組については、議会のインターネット配信、タブレット導入 (SideBooks 導入)、UD・ヒアリンググループの導入、一般質問における議場内モニターへの資料表示、電子採決の導入、市議会 HP のリニューアル、新庁舎での子ども議会の実施、夏休み限定の議場見学を実施した。

開かれた議会への取組について、UD トーク及びヒアリンググループを使用することで、聴覚障がい者等にも会議を円滑に傍聴していただけるような環境を整備し、傍聴の充実を図った。

UD トークは、音声認識で声を文字化することで聴覚に障がいがある方を支えるなど、様々なコミュニケーションをサポートできるアプリで、単語登録機能

により、再現率の向上に繋がった。議場及び委員会室で行われる会議の際に使用し、周音音声でもある程度正確に認識するが、議会では専用機器(iRig2)を接続し、マイクからの音声を直接入力することで、より正確な翻訳となっている。

UD トークは会議音声をモニターに表示させるだけでなく、テキストデータとして取り出せるため、議事録等を効率よく作成でき、発言訂正や発言取り消し等で、会議中早急に音声を確認する必要が出てきた場合、UD トークのテキストデータを利用することで、円滑な議事運営にもつながった。

- ② 住民参画については、住民が傍聴を含め、議会活動に参加しやすい環境づくりに努めている。参考人制度の活用(H.23～)では、請願者の意見陳述を行う。意見陳述の有無は本人の希望制となっており、参考人制度の趣旨に従って委員は請願者に質疑ができるが、請願者から委員に質疑することはできない。

車いす使用者席は、バリアフリー化が進む中で、議会においても車いすの方でも傍聴ができるよう3席分確保している。また親と子(1組)が入れるガラス張り付きの部屋を確保している。車いす使用者席・親子席は先着順としている。

○市民参加の取組を推進する上での課題、改善点

夏休み中の議場見学、社会見学の受け入れ、子ども議会の開催、大学との事業連携・懇談会の実施、正副議長と大学教授・学生で意見交換を行った。そのほか、議員活動や学生の投票に関する意識などを話し合った。和泉市議会では市議会をより身近なものに感じてもらうために、学生・生徒・児童などと積極的に交流する場を設け、模擬議会や意見交換会など学校と協働した活動を行っている。

○質疑応答

- Q 経緯の中で、3委員会にしているのか。UDトーク以前のやり方と経費は。
- A 長年3委員会で行っている。UDトーク以前、議事録は業者委託していた。UDトークは非公開の任意の会議は議会事務局で作っている。UDトークでは、誰の発言かわからない。
- Q 31人の時代から3委員会か？
- A 基本3常任委員会。

- Q 準備期間から導入までかかった期間は？一般質問の数は？
- A 庁舎整備に当たって導入した。H24年から検討した。一般質問、正副議長と監査を除く15人～17人。最近は2日間で終わることもある。
- Q 親子席、車椅子席の利用実績は。子ども議会の募集の仕方は？テーマを考えるのは？実現したものは？
- A 車椅子席はなし。見学者はたくさんいた。親子席1件傍聴(未就学児2人)。教育委員会を通じて各校に募集をかける。R7「全ての命が輝くアイデア。」R6市制施行100年に向けてを考える。グリーンベルトの提案から議員が質疑をした。
- Q 紙とLINEのアンケート調査で600件の回答があった。LINEの件数は。
- A デジタル媒体の回答の方が多い。数は掴んでいない。
- Q 議事録センターをメイン。選択した理由は？ホームページの子供向けの反響は？事前学習は学校ですか？
- A 市のホームページと議会のホームページは別物にしている。社会見学、子供議会、キッズページを案内している。可愛くりニューアルしてある。事務局から教育委員会に伝える。社会見学は庁舎の下見にきた教師に紹介。
- Q 一般質問と予算審議。委員会最終日の午後5時まで。当初予算に対する質問は？
- A 二重審議の防止のため、最終日に持ってくる。早くに出す人は初日に持ってくる。当初予算、対抗質疑の通告を会派に1人質問時間15分。

委員長所感

和泉市議会は、「地域経営のための議会改革度調査2024(早稲田デモクラシー創造研究所)」において総合6位(政策力の強化:3位、主権者の参画:4位、議会機能の強化:59位)にランキングされ、大阪府下の一般市で1番という評価があったことから視察先とした。

和泉市のとりくみは、議員から100項目の議会改革の課題を出し、それをできる事から一つずつ実現していく改革であった。開かれた議会へのとりくみや、議会運営の透明性と情報公開、市民参加のとりくみを推進すると言った実践を紹介していただいた。その中で、注目したのはUDトークであった。UDトークは、音声認識で声を文字化することで聴覚に障がいがある方を支えるなど、様々なコミュニケーションをサ

ポートできるアプリで、単語登録機能により、再現率の向上に繋がり、議場及び委員会室で行われる会議の際にはマイクからの音声を直接入力することで、より正確な翻訳となっている。松阪市においても、このUDトークの活用は、作業効率化においても重要であると考え。和泉市の実践を松阪市でも取り組む必要がある。

ただ期待した議会としての論議の深化、議案修正や附帯決議など事例がないとのことであった。「議会改革」の評価については次の宝塚市の議会審議の在り方についての深化があることと当地のような機器材を含めた活用や市民への新しい対応が高い評価の対象となる事例として受け止めるべきことを認識した。



視察風景

2. 視察先 兵庫県宝塚市 市役所

日時 1月8日(木曜日) 10:00~12:00

視察テーマ 議会改革～議案審査スケジュールの組替えについて～
宝塚市議会对応者

副議長 池田 光隆 ・ 議会運営委員会副委員長 大島 淡紅子
議会事務局議事調査課長 山添 真澄 ・ 議事調査課 益田 裕文
議事調査課書記 有馬 美沙希

委員会における審査スケジュールの変更（平成23年）

従 前	9月定例会以降
本会議(1日目)での提案説明	本会議(1日目)での提案説明・議案の付託
↓	↓
希望会派への議案説明	常任委員会①(議案に対する詳細説明)
↓	↓
本会議(5日目)で議案の付託	常任委員会協議会(委員会としての論点整理)
↓	↓
常任委員会	常任委員会②(質疑・自由討議・討論・採決)
↓	↓
本会議(最終日)で委員長報告・採決	本会議(最終日)で委員長報告・採決

従前の委員会審査は1日のみ。

新スケジュールでは、報告書を協議し決定する日程を含めると計3日を要する。

松阪市議会との主な違い

○会期の長さ(宝塚市議会は長い)

宝塚市議会 11月17日～12月19日 約1カ月

松阪市議会 11月26日～12月17日 3週間ほど

*他の議会も同様に松阪市議会より長い日数がかかっている

○議会スケジュールにおける様々な違い

- ① 宝塚市議会では、委員会審査を含めた議案審査が先にあり、その後一般質問がある
- ② 委員会審査を深めるため、論点を整理するための委員会の時間が先にあり、それを受けて委員会審査に入り、採決まで行う。
- ③ 審査内容を委員会報告書に落とし込み、それをもとに委員長報告が作成される。また、委員会報告書はHPなどで公開したり、議会報告会の素案となったりしている。

成果

- ・論点整理表や自由討議の活用もあり、議案審査の充実につながっている
- ・一般質問中心の議会を、議案審査中心に変えられた

課題

・事務作業量は多いため、事務員を11人から12人に増やして対応中

質疑応答

Q. 現行のスケジュールに対する議員間の評価は？

A 事務局視点で言うと、事務局負担が大きいこと、事務負担の見直しや全体のスケジュールが長くなることが課題。議員間では特に問題ない。

Q. 論点整理表の活用という点で、政策提言に繋がっていたりするのか？

A 論点整理表は現状、出す議員が減ってきているのが現実。数が少ないが故に政策提言につなげられる使い方はしていない。

Q. 論点整理表の論点がズレている時の対応は？

A ある程度、関連性があれば論点がズレていても許容している。

Q. 議案質疑を本会議では行っていないのか？

A 議運の中で、本会議質疑を行うかの確認をしている。行われるケースはほとんどない。

Q. 委員会や一般質問の所要時間は？

A ①の委員会は議案の数や内容によって変わる。30分かからず終わるものもあるが、長くても2時間ほどで終わる。監査員も一般質問はできて、90分の枠はあるが、60分を推奨している。毎回ほとんどの議員がされる。②の委員会の質疑は長い。請願が極めて長い。議会誌で一般質問を取り上げることで、一般質問する議員が増えた。長くする人は最終日にしてもらうようにしている。

Q. 自由討議とは？どういうことを行っているのか？

A 休憩時間に議員間の話し合いをすることが過去にはあったが、自由討議という枠を設けるようになった。

Q. 本会議の予備日が使われることはあったのか？あればどんな時に使われたのか？

A ほとんど使っていない。議案を後で上程するケースで数回あったかどうかくらいの記憶。

Q.一般質問の順番決めは？

A 受付順。1番だけは人気があって、くじにしていた。そこから4つのブロックをつかってエントリーしてもらってやり方に変えた。

Q.委員会報告書の作成のプロセスにおける事務局と議員の役割分担は？

A 原案は事務局で作成している。どのポイントを書くかは委員長からヒントをもらうこともある。最終確認も委員長にしてもらっている。本会議で報告する委員長報告は委員長が作成している。

委員長所感

一昨年、議員定数の検討委員会委員として参加いただいた江藤俊詔氏の著書『自治を担うフォーラムとしての議会』に「議案審査全体に議会としてかかわる制度化をしている」議会として宝塚市議会が紹介され「議案審査を一般質問の前に設置する議会運営」がとり上げられている。松阪市議会の議会力・議員力を高め審議の改革をめざす視点からこの宝塚市議会を視察することにした。

宝塚市議会の改革の取組が成果に記されたように議会審議の在り方を変えてきたことが確認できたことは視察としての成果があったと言える。

議会運営副委員長の大島 淡紅子氏から生の声を聴けたのも有意義であった。

松阪市議会でもそうだが、議会改革、議会運営というところから年数を経て議員の構成が変わり継続、発展に課題を生じるがそれを克服しつつ議会運営の刷新、議会改革を全議員が取り組んでいける方向とそれを協議する機関をより生かしていくことが求められていると言えるのではないかな。

二つの市議会を通して「議会改革」といった場合、どこに視点を置くかで評価が違うものだと実感した。それぞれの先進的な部分を受け止めつつ、松阪市議会の達成について再認識できることも少なくないように感じた。

以上



視察風景

